

CentreCOM® 9812T/9816GB リリースノート


この度は、CentreCOM 9812T/9816GB をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl14 (2.5.1-14)

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl13 から 2.5.1 pl14 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) をご覧ください。

2.1 Rapid STP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」

従来のスパンニングツリープロトコル (STP) よりも構成変更時の収束時間が短い Rapid STP (RSTP) (802.1w) に対応しました。デフォルトの動作モードは STANDARD モード (従来の STP) ですが、SET STP コマンドの MODE パラメーターで RAPID モード (RSTP) に切り替え可能です。また、ブリッジ関連パラメーターは SET STP コマンドで、ポート関連パラメーターは SET STP PORT コマンドで変更します。

2.2 SET IP RIP コマンドの NEWIPADDRESS パラメーター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」

既存 RIP インターフェースの設定を変更する SET IP RIP コマンドに、NEWIPADDRESS パラメーターが追加されました。このパラメーターは、IP パラメーター (隣接 RIP ルーターの IP アドレス) の値を変更するときに使います。

2.3 BGP-4 (AT-FL-09)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ドメイン間経路制御プロトコル BGP-4 に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-09 が必要です。

2.4 MLD (AT-FL-11)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD」

IPv6 のマルチキャストグループメンバーを管理するためのプロトコル、MLD (Multicast Listener Discovery) に対応しました。これにより、本製品単体でも MLD Snooping (AT-FL-11) を利用できるようになりました。ご使用には IPv6 のフィーチャーライセンス AT-FL-11 が必要です。なお、IPv6 のマルチキャストルーティングは現在未サポートです。

3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl13 から 2.5.1 pl14 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 テキストエディター（EDIT コマンド）で特定の操作を行った場合にシステムがリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.2 sysUpTime の値が 2,147,483,647 を超えた場合に、各種 SHOW コマンドにおいて、インターフェースの状態変化後の経過時間を示す ifLastChange が正しく表示されませんでした。これを修正しました。
- 3.3 スイッチポートのリンクアップ / リンクダウンのログが出力されませんでした。これを修正しました。
- 3.4 ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.5 dot1dBasePortEntry の dot1dBasePort、dot1dBasePortIfIndex、dot1dBasePortDelayExceededDiscards、dot1dBasePortMtuExceededDiscards に値がセットされませんでした。これを修正しました。
- 3.6 RMON MIB の etherHistoryIntervalStart が historyControlInterval の間隔で更新されませんでした。これを修正しました。
- 3.7 すべてのインターフェースがリンクダウンしている状態において、DISABLE SWITCH PORT コマンドでスイッチポートをディセーブルに設定し、設定を保存後システムを再起動すると、該当スイッチポートが所属する IP インターフェースがリンクアップした状態になっていましたが、これを修正しました。
- 3.8 ポートセキュリティがオンのポートで学習した MAC アドレスを CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.9 ポートセキュリティがオンのポートで学習した MAC アドレスが、SHOW SWITCH FILTER コマンドで表示されませんでした。これを修正しました。
- 3.10 他の GBIC モジュールから AT-G8T への交換（ホットスワップ）を行った場合、交換前の GBIC ポートに対する通信モードの設定が破棄されず、設定を変更することができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.11 送信元 MAC アドレスがブロードキャストまたはマルチキャストアドレスのパケットを受信したとき、これらのアドレスが FDB に一瞬だけ登録されていましたが、これを修正しました。
- 3.12 QoS 対象スイッチポートがリンクアップしているときに、RIP や OSPF のパケットを受信できない場合がありますでしたが、これを修正しました。


- 3.13 QoS ポリシーにアサインされたポートが 10Mbps または 100Mbps でリンクアップした際に、SHOW QOS POLICY コマンドで表示されるポートの通信速度が正しく表示されませんでした。これを修正しました。
- 3.14 CREATE (SET) CLASSIFIER コマンドでクラシファイアを作成するときにパラメーターの指定を省略すると、ハードウェアパケットフィルタへの適用時にエラーになっていましたが、これを修正しました。
- 3.15 IPSADDR、IPDADDR を条件に持つクラシファイアをハードウェアパケットフィルタに追加する場合、追加順序によってエラーとなることがありましたが、これを修正しました。
- 3.16 複数のクラシファイアパラメーターに IP アドレスを指定し、それぞれのアドレス間の関係が包含関係となった場合、フィルタエントリーが正しく追加できない場合がありましたが、これを修正しました。
- 3.17 ADD SWITCH HWFILTER コマンドの CLASSIFIER パラメーターに、クラシファイア番号をハイフンやカンマで複数指定すると、フィルタエントリーが正しく追加されない場合がありましたが、これを修正しました。
(本項目は 2.5.1 pl13 のリリースノートにおいて修正済みと記載していましたが、実際には修正されていませんでした。2.5.1 pl14 での修正となります)
- 3.18 ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されませんでした。これを修正しました。
- 3.19 隣接ルーターが Priority (DR 優先度) を変更しても、SHOW OSPF NEIGHBOUR コマンドで表示される Priority が更新されませんでした。これを修正しました。
- 3.20 IP ルートフィルタで OSPF 経路をフィルタリングする場合、フィルタリング対象の経路が隣接ルーターの LSDB にすでに登録されていると、その隣接ルーターと隣接関係を確立することができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.21 ADD IPV6 HOST コマンドの IPADDRESS パラメーターに未指定アドレス (::) を指定できていましたが、これを修正しました (AT-FL-11)。
- 3.22 対象となるトラフィックが存在する状態で IPv6 フィルタをインターフェースに適用した場合、その後インターフェースからフィルタの適用を解除しても、フィルタが機能したままになっていましたが、これを修正しました (AT-FL-11)。
- 3.23 PIM-DM、PIM-SM において、システム再起動後、Triggered_Hello_Delay 時間内に Hello メッセージを送信しないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.24 PIM-SM において、RP のネットワークがダウンし、RIP でメトリック 16 が通知されてきた場合、PIM の経路表に矛盾が生じ、本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 3.25 PIM-SM において、Join 中に上流ルーターの Generation ID が変更された場合、隣接関係の確立前（Hello メッセージの送信前）に Join メッセージを再送してしまうため Join に失敗し、結果として、次の Join メッセージを送信するタイミングまでマルチキャストトラフィックを受信できなくなっていました。これを修正しました。
- 3.26 PIM-SM において、本製品が RP のとき、受信者側のルーターから (S,G,RP) Prune メッセージを受信しても、マルチキャストトラフィックの送信を停止しませんでした。これを修正しました。
- 3.27 大量のマルチキャストトラフィックが存在する環境において、IGMP Report を受信してもメンバーを登録しないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.28 ファイアウォール (AT-FL-10) において、インターフェース NAT またはルール NAT を使用している場合、フラグメントパケットを透過するように設定しても、再構成後の IP データサイズ (L4 パケットサイズ) が 1780 Byte を超えるパケットが IPSPOOF アタックと認識され、通信ができなくなりましたが、これを修正しました。
- 3.29 ファイアウォール (AT-FL-10) において、PUBLIC 側に PROTOCOL=ALL を指定したスタンダード NAT ルールを設定すると、ICMP_FORWARDING が無効であっても PUBLIC 側からの ICMP パケットを PRIVATE 側に転送していましたが、これを修正しました。
- 3.30 ファイアウォール (AT-FL-10) において、PUBLIC 側に PROTOCOL=ALL を指定したエンハンスト NAT ルールを設定すると、ICMP_FORWARDING が有効であっても PRIVATE 側からの ICMP パケットが破棄されていましたが、これを修正しました。
- 3.31 ファイアウォール (AT-FL-10) において、PUBLIC 側にリバース NAT ルールを設定する場合、ADD FIREWALL POLICY RULE コマンドの GBLREMOTEIP パラメーターに（本来はできないはずの）複数アドレスの範囲指定が可能になっていましたが、これを修正しました。
- 3.32 ファイアウォール (AT-FL-10) のスタンダード NAT ルールとエンハンスト NAT ルールの設定において、ADD FIREWALL POLICY RULE コマンドの GBLREMOTEIP パラメーターが指定できていましたが、これを修正しました。
- 3.33 CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、不要なメッセージがログに記録されることがありましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl14 には、以下の制限事項があります。

4.1 コンパクトフラッシュについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」


- SHOW CFLASH コマンドでコンパクトフラッシュカードのシリアル番号を表示すると、表示されたシリアル番号の前に不要なスペースが入ります。シリアル番号は正しく表示されていますのでスペースは無視してください。
- コンパクトフラッシュから本製品内蔵のフラッシュメモリーにファイルをロードする場合、ENABLE IP コマンドで IP モジュールを有効にする必要があります。

4.2 NVS 上のシステムファイル保護機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」


- 本製品は、NVS 上のシステムファイル (prefer.ins、config.ins、enabled.sec) を保護するため、毎起動時、フラッシュメモリー上にコピーを自動作成しますが、enabled.sec が NVS 上にだけ存在する状態でシステムを再起動すると、同ファイルがフラッシュメモリーにコピーされません。
- CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後など、prefer.ins がフラッシュメモリー上にだけ存在する状態でシステムを再起動すると、ファームウェア構成情報が読み込まれず、EPROM からシステムが起動します。CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後は、SET INSTALL コマンドでリリースファイル (とパッチファイル) を指定しなおしてください。

4.3 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター (保存するメッセージの最大数) に 92 以上の値を指定した場合、NVS には指定値に満たない数しかメッセージが保存されません。
- CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。


4.4 スクリプトについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「スクリプト」

- スクリプトにグローバルな特殊変数を使用した場合、IF THEN ELSE 文で使用する文字列比較演算子 EQ (等しい) および NE (等しくない) は、文字列の先頭 2 文字しか比較しません。したがって、「AAAA」と「AABB」を比較すると、同一の文字列であると判断してしまいます。この問題を回避するには、先頭 2 文字で違いを判断できるような文字列を使用してください。

- スクリプトに変数 %T, %N, %S を使用した場合、IF THEN ELSE 文で EQ を指定しても 2 つの文字列が等しいときに真を返すという動作になりません。

4.5 SNMP MIB オブジェクトについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- dot1dStpRootPort, dot1dStpPort, dot1dTpFdbPort, dot1dTpPort のポート番号が正しく表示されません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。

4.6 NTP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

- NTP パケットの Root Dispersion フィールドにマイナスの値をセットしてしまうことがあります。
- 本製品のシステムクロックと NTP サーバーのクロックの間に 34 年 9 日 10 時間以上の差がある場合、本製品の NTP クライアントは NTP サーバーに同期できません。

4.7 SET TELNET コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


SET TELNET コマンドをパラメーターなしで実行すると（単に「SET TELNET」と入力すると）、SHOW TELNET コマンドと同じ動作になります。

4.8 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

4.9 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ソースポートの所属 VLAN から送信される予約 IP マルチキャストパケット（OSPF、IGMP、PIM 等）がミラーポート自身からも送信されます。

4.10 DISABLE SWITCH PORT コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

GBIC モジュール（AT-G8T、AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G9ZX）を実装したポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、指定したポートが物理的にリンクダウンし、LINK LED が消灯します（対向機器のポートもリンクダウンします）。

4.11 RESET SWITCH PORT コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

RESET SWITCH PORT コマンドは、1000BASE-SX ポート、および AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G8T、AT-G9ZX の GBIC ポートに対しては使用できませんが、現状これらのポートに対しては本コマンドがエラーにならずに受け付けられます。

4.12 QoS 対象スイッチポートについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポリシーベース QoS」

QoS 対象スイッチポートに設定されている通信速度と、実際の通信速度が同一であるにもかかわらず、Warning (警告) のメッセージが表示される場合があります。この警告は無視してください。

4.13 ハードウェアパケットフィルターについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- ADD SWITCH HWFILTER コマンドで DPORT に 13 を指定した場合、CPU 宛てのパケットがフィルターにマッチすると破棄されます。
- ADD SWITCH HWFILTER コマンドにおいて、CLASSIFIER パラメーターに DVLAN または PROTOCOL=ARP を条件に含むクラシファイアを指定し、ACTION パラメーターに FORWARD を指定した場合、DPORT パラメーターにポート 1 が含まれていると、条件にマッチする ARP パケットが破棄されます。クラシファイアが DVLAN を条件としている場合、DVLAN 内に 2 つ以上リンクアップしているポートがあれば本現象は発生しません。また、クラシファイアが PROTOCOL=ARP を条件としている場合、システム全体で 2 つ以上リンクアップしているポートがあれば本現象は発生しません。
- ADD SWITCH HWFILTER コマンドにおいて、CLASSIFIER パラメーターに IPSADDR を条件に含むクラシファイアを指定し、ACTION パラメーターに FORWARD を指定した場合、条件にマッチする OSPF、RIP パケットが CPU に転送されません。
- ハードウェアパケットフィルターの先頭エントリー (RULEPOS=0) が、DVLAN、SVLAN を条件に含むクラシファイアを使用している場合、このエントリーは機能しません。

4.14 ICMP メッセージについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

4.15 TRACE コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」

TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がレポートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。

4.16 IP 統計情報の表示について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。
- ファイアウォール (AT-FL-10) 有効時、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、inHdrErrors カウンターがカウントされません。

4.17 ディレクティブブロードキャストアドレス宛のパケットについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

ディレクティブブロードキャストフィルタリング有効時 (デフォルト有効)、ディレクティブブロードキャストパケットを連続して受信すると、CPU 負荷率が上昇することがあります。

4.18 OSPF について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- ASBR から受信した AS 外部経路をルーティングテーブルに反映しないことがあります。このような場合は、RESET OSPF コマンドを実行してください。
- ABR として動作する本製品にスタブエリアを設定した場合、設定保存後システムを再起動すると、スタブエリアにデフォルトルートを通知しなくなります。

4.19 DNS サーバーアドレスの動的取得について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

4.20 DNS キャッシュについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」


DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

4.21 UDP ブロードキャストヘルパーについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

UDP ブロードキャストパケットの転送先は 32 個まで設定可能ですが、コマンド入力直後は 28 個目までしか機能しません。また、設定保存後に再起動しても 31 個目までしか機能しません。

4.22 ICMPv6 メッセージについて (AT-FL-11)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」


- ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。
- 本製品と相手機器双方の Neighbour キャッシュが空の状態、相手機器から本製品に向けてデータ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行すると、本製品がリポートすることがあります。本製品に対して、データ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行しないでください。
- Path MTU Discovery が有効のとき、本製品が送信する ICMPv6 Packet Too Big メッセージ内の MTU フィールドに正しい値がセットされないことがあります。

4.23 IPv6 インターフェースの設定について (AT-FL-11)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

ADD IPV6 INTERFACE コマンドの IPADDRESS パラメーターにリンクローカルアドレスを指定した場合、設定を保存しても再起動後に消去されます。再起動トリガーを使用するなどして、再起動後に設定しなおすようにしてください。

4.24 IPv6 フィルターの統計カウンターについて (AT-FL-11)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 フィルター」

IPv6 フィルターでパケットを破棄しても、SHOW IPV6 FILTER コマンドで表示される統計カウンター「Fails」がカウントされません。

4.25 PIM-DM について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」


- Assert Loser から Prune メッセージを受信しても Prune Ack を返しません。
- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。

4.26 PIM-SM について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。


4.27 ファイアウォール (AT-FL-10) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- TCP/SYN パケットの代理応答が有効にもかかわらず、TCP ヘッダーに ECE フラグが設定されたパケットを受信した場合、Ack を返さずに、転送します。

- TCP/SYN パケットの代理応答無効時に、TCP SYN + ACK パケットが VLAN を越えるとシーケンス番号が 0 (ゼロ) になります。
- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

4.28 DHCP サーバー機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」**

- DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP OFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。
- MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合があります。このようなときは、リースされている IP アドレスを一度解放し、再度取得させるようにしてください。
- DHCPREQUEST を拒否した (DHCPNAK を返送した) ときに記録されるログメッセージ内の IP アドレス (DHCPREQUEST の送信元) が正しくありません。本現象はログだけの問題であり、DHCPNAK の送動作には問題ありません。

4.29 DHCP ポリシーの ON/OFF 指定パラメーターについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「DHCP ポリシー」**

ADD/SET DHCP POLICY コマンドの以下のパラメーターが指定した値と逆の動作をします (ON を指定した場合は OFF、OFF を指定した場合は ON)。ON と OFF を逆に指定するようにしてください。

ETHERENCAP, MASKDISCOVERY, MASKSUPPLIER, ROUTERDISCOVERY,
SUBLOCAL, TCPGARBAGE, TRAILERENCAP

4.30 DHCP レンジの設定について

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「DHCP レンジ」**

ADD DHCP RANGE コマンドの IP パラメーターにネットワークアドレスを指定しないでください。192.168.1.0 など通常割り当てられてはいけなネットワークアドレスが DHCP クライアントに割り当てられてしまいます。


5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

付属の「取扱説明書」、および「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C)の補足事項です。

5.1 HTTP サーバー (サポート対象外) について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。


5.2 ポートのリンクアップ時のログ表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

スイッチポートの速度が変わったときに、SHOW LOG コマンドで表示されるログに、下記のようなメッセージが記録される場合がありますが、動作に問題はありませので、このメッセージは無視してください。

Parameter EGRESSLIMIT, value has been rounded to XXXX

5.3 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

本製品は、受信パケットのミラーリングだけが可能です。送信パケットのミラーリングには対応していません。以前のドキュメントには記載されておりませんが、本仕様は 2.5.1 pl14 を含むすべてのソフトウェアバージョンに適用されます (「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) において追記されました)。


ソースポートの設定をするときは、SET SWITCH PORT コマンドの MIRROR パラメーターに RX か NONE のどちらかを指定してください。TX や BOTH を指定してもエラーにはなりません。これらを指定した場合の動作はサポート対象外となります。TX と BOTH は指定しないでください。

未サポートコマンドおよびパラメーターについては、本リリースノートの「6 未サポートコマンド (機能)」をご参照ください。また、設定コマンドの詳細については「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) をご覧ください。

5.4 イングレスフィルタリングについて

本製品はイングレスフィルタリングをサポートしていないため、受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。

5.5 スタティックルートの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (スタティック)」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターの IP アドレスは、INTERFACE パラメーターで指定する IP (VLAN) インターフェースと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属する IP アドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

5.6 DVMRP について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応していません。

5.7 PIM について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

本製品の ASIC は、OIF から受信したマルチキャストパケットを CPU に転送しないため、OIF からマルチキャストパケットを受信したときでも Assert メッセージは送出されません。このため、隣接ルーターが存在する OIF に対しては、マルチキャストパケットを受信したか否かがかわらず、Assert メッセージを送出します。

5.8 コンパクトフラッシュカードの取り付けかた

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

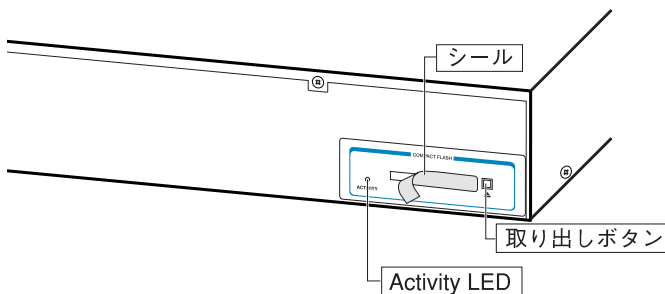
本製品には、オプション（別売）で、コンパクトフラッシュカード（以下、CF カードと省略します）「AT-CF-128A-001」が用意されています。外部記録メディアとして、ファームウェアや設定ファイルの保存が可能です。

- ▶ 弊社販売品以外の CF カードでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。
- ▶ CF カードのデータは他の CF カードリーダーでも操作が可能のため、取り扱いには充分ご注意ください。
- ▶ 本製品は FAT16 フォーマットの CF カードに対応しています。FAT32 や NTFS フォーマットの CF カードは、コンピューターで FAT（FAT16）にフォーマットしてからご使用ください。

本製品に CF カードを取り付ける手順は以下にしたがってください。

- ▶ CF カードはホットスワップ対応のため、取り付け / 取りはずしの際に、本製品の電源を切る必要はありません。

1. ご購入時には、CF カードスロットをシーリングしてあります。CF カードを使用する際にはシールをはがしてください。



2. CF カードをスロットにしっかりと奥まで差し込みます (CF カードが挿入されると、取り出しボタンが飛び出ます)。

CF カード使用時の Activity LED の表示は以下のようになります。

色	状態	表示内容
緑	点滅	CF カード挿入時に一回点滅します。
	点灯	CF カードにアクセスしているときに点灯します。

CF カード挿入時、カードが正しく認識されると、以下のようなメッセージが表示されます。

Info (1106268) : Compact flash card initialisation successful.

CF カードが正しく認識されなかった場合、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

Error (3106300) : Compact flash card initialisation unsuccessful.

さらに、SHOW CFLASH コマンドを使用して、CF カードが正しく認識されているか確認することができます。

(正しく認識されている場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes

.....(省略).....

(正しく認識されていない場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes (Invalid)

.....(省略).....

CF カードを取りはずす場合は、取り出しボタンを押して CF カードを引き抜きます。

! CF カードへのアクセス中 (Activity LED 点灯中) に、CF カードを取りはずさないでください。データが破損する恐れがあります。

CF カード上のファイル操作などについては、コマンドリファレンスをご参照ください。

6 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。
ALARM, APPIetalk, CLNS, ETH, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPX, L2TP, LDAP,
LOADBalancer, LB, PIM6, PKI, PPP, RSVP, SA, SSL, STAR, SYSTEM SYSR
- 以下のコマンド (パラメーター)
下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C)
に記述があります。
COPY
DUMP
START PKT
STOP PKT
SET PKT
SET SYSTEM TEMPTHRESHOLD
TRACE [ADDRONLY]
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]
[SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SET SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [JUMBO] [MIRROR=(BOTH;TX)]
[SPEED={10MHAUTO;10MFAUTO;100MHAUTO;100MFAUTO;
1000MHAUTO;1000MFAUTO;1000MHALF}]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
SET SWITCH BLADE
RESET SWITCH BLADE
SHOW SWITCH HOTSWAP
ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/SET/SHOW IP SA
SET IP INTERFACE [VJC]
SHOW IP CACHE
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

```
CREATE QOS TRAFFICCLASS [PRIORITY]
CREATE QOS FLOWGROUP [PRIORITY]
CREATE QOS TRAFFICCLASS [STATUS]
SET QOS PRIORITYQUEUEING
SET QOS VLANQUEUEMAP
SET QOS TRAFFICCLASS [STATUS]

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRRESH]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
ADD/DELETE FIREWALL POLICY RULE [LIST=RADIUS]
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE ENCO KEY TYPE={DES;3DES2KEY;3DESINNER;GENERAL} [MODULE]
[ {RANDOM;VALUE} ] [FORMAT={HEX;NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;
USER;UTIL}

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]
```

7 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (J613-M6933-01 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6933-01 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>